

やまびこ

YAMABIKO

2019
(令和元年)

8月号



 東葛山の会



No. 501

もくじ

2019年8月

8月・9月 予定表	1
7月例会報告（1出席者・2山行実績・3議事メモ）	2～3
第43回定期総会議事録	4～6
山行部 仕事と役割分担	7
山行年間計画表・検討担当者	8
会報部 役割分担	9
事務局 役割分担	10
山行案内(8月・9月・10月)	11～15
山行報告	
・飯土山・金城山（清水）	16
・中国大姑娘山	17～26
（安彦）・（嶋本）・（逢地）・（石塚）・（桐生）・（菊池）・（五十嵐朝）	
・木曾御嶽山（江崎）	27～28
・焼石岳・栗駒山（井上順）	29～30
・黒檜山・谷川岳（前田節）	31
短歌 梅雨の晴れ間に新潟の山を登る（羽鳥）	32
山の思い出（八巻）	33～34
お得切符の紹介	28
ちょっと一言（高見・前田延）	35

表紙写真紹介

今から7年前に竹馬の友と、小林さんと「古希登山」に大日岳に行きました。何年かに一度の「コバイケソウ」の群落に遭遇しました。
室堂乗越から中大日岳までの登山道を彩っていました。
翌日、称名坂で雷雨に遭いまして電車も止まり、楽しいのと、怖いのと、とても印象に残る山行でした。

～伏見純子～

会報部からのお願い <表紙写真>

9月号は高見信明さん、10月号は前田延津子さん、よろしくお願いします。
その際、100字程度の紹介文を添えて、前月第二例会までに、会報部（鈴木か）
へ提出してくださるようお願いします。

予定表 2019年 8月・9月

日	曜日	8月	日	曜日	9月
1	木	卷機山（一泊二日）	1	日	
2	金	印刷（8月号）	2	月	
3	土		3	火	
4	日	那須・塩原自然研究路 （一泊二日）ウォーキング	4	水	第一例会（18:30より）
5	月		5	木	
6	火		6	金	ワンコイン講習会
7	水	第一例会（18:30より）	7	土	蔵の街・太平山ウォーキング
8	木		8	日	
9	金		9	月	
10	土		10	火	
11	日	山の日	11	水	山行部会（18:30より）
12	月	振替休日	12	木	
13	火		13	金	
14	水	山行部会	14	土	大蔵高丸
15	木		15	日	
16	金		16	月	敬老の日
17	土		17	火	
18	日		18	水	第二例会（19:30より）
19	月		19	木	
20	火		20	金	
21	水	第二例会（19:30より）	21	土	
22	木		22	日	
23	金		23	月	秋分の日 編集会議
24	土		24	火	カラー印刷（加藤宅）
25	日		25	水	
26	月	編集会議	26	木	
27	火	カラー印刷（加藤宅）	27	金	印刷（10月号）
28	水		28	土	富士吉田口～五合目9/29予備
29	木		29	日	全国ハイキング学校（府中）
30	金	印刷（9月号）	30	月	
31	土	入笠山バスハイク			
2019年10月の予定 ★10/7(月)～10/8(火) 安達太良山（一泊二日）					
★10/19(土) 大小山・大坊山・・10/20(日) 予備日					
★10/27(日) コスモスふれあいロードウォーキング・・雨天中止					
★県連より・・・					
11/9(土) 事故防止経験交流集会（富津市民の森）					

第 43 回定期総会議事録

日時 : 2019 年 6 月 30 日 13:30~17:30
場所 : 鎌ヶ谷市中央公民館 第一学習室

議長、書記の選出

議長に井上順之、書記に清水利夫、高木保を選出した。

会長挨拶（安彦）（議案書 p.2 参照）

山を登る際には計画段階から山行そして下山報告後帰宅まで常に安全に留意した行動を意識してほしい。県連の「事故防止経験交流集会」などに多くの方の参加をお勧めします。
出席状況（四元） 55 名中 49 名出席、委任状 5 通で総会成立の報告があった。

議事（議案書 p.3~8 参照）

議案 1 第 42 期活動報告

事務局（四元）、山行部（菅谷）、会報部（梅田）、県連（羽鳥）の各部門より報告された。

議案 2 第 42 期会計報告

会計（星田）より 2018 年度会計収支決算が報告された。

議案 3 監査報告

監査（三橋）より監査結果が報告された。

質疑応答（議案 1,2,3 について）

・ p.8 の労山諸費とは何か、使途などについてお聞きしたい。（笹）

→県と全国連盟の活動に使用されている。会員一人当たり 300 円/月 = 3,600 円/年及び会定額として 3,600 円が支払われている。県と全国連盟の会計報告に明記されている。県の総会議案書の会計報告は事務局管理しており閲覧できる。（安彦、羽鳥）

・ 雑収入（公民館祭りワカメ販売）の使途を会員に還元（懇親会などの際の補助）したらどうか（四元）

→山の会として飲食費の補填ではなく本来の目的一バスハイクなどに充てたらどうか（安彦） 議長より、保留とした。

・ 雑収入（公民館祭りワカメ販売）には販売と仕入れが発生しているので、バランスシートの面で正しくないので…。（梅田）

→p.3 の事務局報告に明記されている。正論かもしれないが、簡便化して処理している。保留とした（次年度で反映するかどうかを検討する）。・・・審議継続

採決

以上の議案は満場一致で承認、可決された。

（ 10 分間休憩、3 時より再開 ）

議案4 第43期活動方針（案）

事務局（四元）、山行部（菅谷）、会報部（梅田）、県連（羽鳥）の各部門より議案書に従い提案された。

議案5 第43期会計収支予算（案）

会計（蓮見）より2019年度会計収支予算案が提案された。

質疑応答（議案4,5について）

- ・備品等、老朽化の為購入を検討したいが現状予算を見ても分かる通り予算の要求もしづらい為、会費の増額も含めた検討が必要と思う。（菅谷）・・・審議継続
- ・予算アップの件（備品購入も含め）運営委員会で検討してはどうか。（羽鳥）
- ・会の備品録の中に「カラー印刷機」が一覧表に記入漏れとなっているが、備品ではないのか。備品であれば記入したほうが良いのでは…。（前田）→追加記入とする。
- ・遭難対策基金について

（1）遭難対策金は、これまでに貸付金としての利用（運用）をされたことはない。

2009年に会則で規定されている（会費の20%を基金に充当）が、1998年度に積立金が100万円を超えたので、翌1999年度から積立てを止め今日に至っている。その後、会創立40周年記念事業などに一部を還元し、現在高は¥988,000になっている。（高木、安彦）

（2）会山行のバスハイク等に遭難対策基金を一部取り崩して運用してはどうか（安彦）

（3）40周年記念行事などで一部運用実績があるので今後も利用したらよいのでは。
(小林 正)

（4）取り崩しに反対ではないが記念事業などで使った方が良いと思う。（手塚）

（5）会費の値上げを含め利用の上限をどうするか等を検討し是非を決めたらどうか。
(赤塚)

（6）遭難対策基金はあくまで貸し付けの為の基金であるが、現在では昔と比べ個人の資金力は向上しているので他に運用しても良いのでは…。（安彦）

※ バスハイクの補助に関しては、予備費より出費としたい。

・例会の開始時間の変更について

（1）時間を早くすると、仕事を持っている人は間に合わない人がいる。

会の新規会員募集と若返りの趣旨には反するのではないか。（安彦）

（2）第一例会と第二例会で時間を変更してはどうか。（江崎）

※次の通りとして、8月より実施する。不都合が発生した時点で再度話し合う。

第一例会： 18：30～20：30（1時間前倒し）

第二例会： 19：30～21：30（従来通り）

採決

以上の議案は満場一致で承認、可決された

議案 6 第 43 期役員選出

- ・会長・・・安彦会長が継続で会長職となります。
- ・新役員立候補者を集めるが立候補者なしの為、議案書の新担当者（案）の通りとする。
- ・副会長が 1 名不在の為立候補者を集めるが立候補者なしの為従来通り空席とする。

採決

役員・担当選出議案は満場一致で承認、可決された。

閉会



第 43 回定期総会

山行部の仕事

1、山行部連絡調整

- ① 山行部の役割 ○ 菅谷、手塚
(会全体の方向性と山行部の役割)
- ② 山行部の仕事の分担 ○ 菅谷、江崎
(仕事の内容の検討、役割分担)
- ③ 各部への連絡調整 ○ 菅谷、江崎、手塚
(他部への連絡、委員会への出席)

2、山行管理

- A ①年間山行計画の立案 ○ 永木、岡部、猪狩、五十嵐朝、小林正、間瀬、水沢
(会山行を中心とした山行の計画)
- ②訓練山行の立案 ○ 赤塚、菊池、嶋本、安田、小林和、畠中、鈴木正
(講習会、実施訓練の計画)
- B ①会山行の具体化及び実施 ○ 江崎、小林正
(会山行についての部会での司会と意見調整)
- ②会山行と個人山行との意見調整 ○ 手塚、江崎
(個人山行計画との問題点の指摘と補足など)
- C ①会山行・個人山行の把握 ○ 菅谷、江崎、手塚
(山行計画書・下山報告の受理。参加者の確認と記録)
- ②山行記録 ○ 菅谷、赤塚
(会員の山行のジャンル別整理と記録 〈上記①を補足するかたちで〉)

3、教育、研究、遭難対策

- A ①教育 (講習、新入会員等の指導) ○ 菊池、赤塚、村田、水沢
- B ②研究 (山行、用具等の研究) ○ 安田、鈴木正、鈴木隆
- C ③遭難対策 (事故防止、対策) ○ 岡部、間瀬、入江、畠中

4、庶務

- ① 山行部会の会場確保 ○ 小林正、入江
- ② 第一、第二例会での司会 ○ 猪狩、嶋本、間瀬、村田
(8月、11月、2月、5月) (8月、11月、2月、5月)

5、装備の把握・管理

- 手塚、永木
(装備の購入、廃棄などの管理)

○は主になってやっていただく方です。

2019年度 会山行年間計画表・検討担当者

2019年度 ウォーキング年間予定・担当者

検討日時	検討担当者	(やや)きつい山				(やや)ゆるい山				里山、史跡探訪、高原ウォーキング			
		月	山名	担当	山名	担当	月	場所	CL	SL	計画		
6月12日	山行部全員	9	富士山五合目まで	高木 鈴木か	山口幸 江崎	大蔵高丸	井上勝 松本 加藤	村田	9	蔵の街どちぎ	山岡	八巻	山岡
7月10日	永木、安田、村田、小林和	10	安達太良山(泊)	小林正 小林和	金子 前田節	大小山・大坊山	梅田 逢地	村上和	10	コスマスふれあいロード	入江	三橋	入江
8月14日	岡部、嶋本、畠中、鈴木正	11	日和田山	菅谷 赤塚	安田 手塚	尾白川渓谷	井上勝	山脇 菊池		11	秩父	羽鳥	小林 羽鳥
9月11日	小林正、菊池、猪狩、水沢	12	京都(大文字山～比叡山)(泊)	高木 桐生	鳴本 山口洋	外山・葛老山	安彦 星田	三橋		12	房総のむら	小林	八巻 小林
10月9日	間瀬、五十嵐朝、赤塚、入江	1	大霧山	村上和 間瀬	梅田 四元	行道山	鈴木か	前田延 鈴木正		1	鬼戸	三橋	山岡 山岡
11月13日	小林正、安田、岡部、間瀬	2	三浦アルプス	石塚 蓮見	山口幸 永木	城山～幕山～湯河原梅林	金子 菅原	水沢 岡部			長瀬宝登山	八巻	高山 八巻
12月11日	永木、嶋本、五十嵐朝、水沢	3	平標山(泊)	菅谷 桐生	安田 永木	弥彦山 多宝山、国上山(泊)	伏見 前田節	五十嵐朝		3	大多喜町	羽鳥	小林 羽鳥
1月15日	菊池、小林和、畠中、赤塚	4	鹿沼岩山	石塚 安彦	井上順 岡部	城山～葛城山	笹 高見	手塚 村田		4	城山力タクリの里	三橋	八巻 八巻
2月12日	村田、猪狩、鈴木正、小林正	5	武甲山	四元 畠中	山脇 菊池	倉見山	前田延	間瀬 加藤	嶋本	5	弁天山・城山	山岡	入江 山岡
3月11日	岡部、永木、五十嵐朝、水沢	6	蓼科山(泊)	伏見 高見	江崎 鈴木正	高山 小林和	星田 池谷	蓮見		6	野山北・六道山	高山	入江 入江
4月8日	安田、嶋本、鈴木正、赤塚	7	白馬大池～蓮華温泉(泊)	山口洋 五十嵐朝	菅谷	早池峰山(泊)	羽鳥 清水	猪狩		7	三島めぐり	小林 羽鳥	小林
5月13日	間瀬、菊池、畠中、村田、猪狩	8	苗場山(泊)	菅原 清水	猪狩 水沢	霧ヶ峰(泊)	赤塚 小林正	羽鳥 逢地		8	霧ヶ峰(泊)	高山	山岡 山岡

2019年度会報部役割分担表

部員 A班（偶数月号） 梅田 山岡 加藤 八巻 前田せ 前田悟 清水

B班（奇数月号） 桐生 鈴木か 高山 前田え 井上順 山脇

※ 公民館印刷日担当（編集会議の週の金曜日 10時～）各自の都合で応援を！

★会報「やまびこ」

○表紙/お知らせ/編集：鈴木か

○もくじ：前田せ

○予定表：八巻

○例会報告（出席者・山行報告）：前田え 山脇

○例会報告（議事）：井上 前田せ 梅田の3名交代で各月の第一、第二例会を以下の通り担当する。

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前田せ	井上	梅田	前田せ	井上	梅田	前田せ	井上	梅田	前田せ	井上	梅田

○山行案内：山岡

○山行報告・感想文：前田せ 鈴木か 山岡

○ちょっと一言：高山

○編集後記 編集担当：山脇

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
加藤	清水	山脇	鈴木か	山岡	前田せ	前田え	高山	前田悟	桐生	梅田	井上
高山	前田悟	桐生	梅田	井上	八巻	加藤	清水	山脇	鈴木か	山岡	前田せ

★ 「やまびこ」配布：前田え

★ 会場予約・支払い：八巻

★ 用紙購入・管理&ホチキス管理：桐生

★ 感想文原稿まとめ：鈴木か

★ レーザープリント印刷：桐生 加藤（編集会議翌日 9:00～加藤さん旧宅にて）

★ 例会司会：第一第二とも

9月 清水 12月 桐生 3月 鈴木か 6月 井上

★ 「やまびこ」電子化〈PDF〉：梅田

★ ホームページ関連：清水

※原稿はD R O P—B O Xを活用してできるだけ多くの部員で編集会議までに校正・編集を済ませるようにしましょう。

※都合の悪い時は連絡しあって、交代するなど助け合いを！

※毎月「やまびこ」発行を続けましょう。

※持続可能な範囲で無理せずに、楽しみながら内容を充実させましょう。

2019年度事務局役割分担

「メンバー」

四元局長、高木保（副）、高見信明（副）、村上和子、渡邊正夫、伏見純子、
逢地春雄、三橋和子、菅原恵子、井上勝代、山口幸雄、池谷道隆、清水利夫
石塚洋子、金子真紀、笹真一郎

「主な業務」、

1. ホームページ運営	担当 清水、四元
2. 例会の運営 司会	担当 四元 高見 高木
3. 運営委員会	担当 四元 高見 高木
4. 総会と懇親会	担当 四元 村上 伏見 逢地
5. 例会場所の確保	担当 全員
6. 会員拡大 市広報掲載、公民館掲示等	担当 四元 三橋 伏見 池谷
7. 入会・退会・労山手続	担当 四元 高木
8. 入会面接	担当 四元 高見 高木
9. 労山特別基金手続・スポーツ安全保険	担当 管原 伏見
10. 公民館まつり 写真収集	担当 全員 担当 清水 石塚 菅原 伏見
11. 新入会員 フォローアップ	担当 渡邊 村上 石塚 伏見
12. ロッカー管理	担当 逢地 四元
13. 全国労山との窓口、	担当 四元
14. パソコン全般、名簿管理、連絡網管理	担当 清水 四元
15. ちばニュース 配信 ・ 印刷製本	担当 高見 三橋
16. 登山時報	担当 高見
17. 規定類管理 改定・作成(マニュアル)	担当 四元 高見 高木 笹
18. 備品管理	担当 高見 四元 逢地
19. 例会運営の見直し	担当 高見 伏見 井上 菅原
20. 入会しおりの見直し	担当 四元

山 行 案 内

8月の山行予定

***巻機山 (まきはたやま) 1,967m (御機屋 1,933m)** 体☆☆☆

日 時：8月1日（木）～2日（金） 1泊2日

担 当：(CL) 羽鳥 、 (SL) 四元・間瀬

***塩原自然研究路 ウォーキング**

日 時：8月4日（日）～8月5日（月）(1泊2日)

担 当：(CL) 小林 、 (SL) 山岡

***入笠山 (1,955m) ややゆるい山 (体☆☆)**

日 時：8月31日（土）

担 当：(CL) 高見 、 (SL) 小林和・村上和

9月の山行予定

***太平山 (341m) と蔵の街・栃木ウォーキング ☆**

「陸の松島」の大展望と蔵の街を散策

日 時：9月 7日（土） 雨天中止

交 通

(往路) 新鎌ヶ谷 6:21—柏 6:37_6:42—春日部 7:23_7:36—南栗橋 7:53_7:54—新大平下（東武線）8:23

(復路) 栃木（東武線）—南栗橋—北千住—松戸—新鎌ヶ谷

コース：新大平下駅…客人神社（大平山登山口）…謙信平…大平山神社…大平山
蓮祥院六角堂…国学院前バス停—（バス）—幸来橋（下車）…蔵の街散策
…栃木（東武線）

歩行時間：約4時間

交 通 費：約3000円

そ の 他：蔵の街巡りは約3km、1～2時間程度

担 当：(CL) 山岡、(SL) 八巻

*大蔵高丸（1,781m）ゆるい山（全会員対象）体☆☆ 危★

秀麗富嶽十二景にも選ばれている大蔵高丸、草原状の山頂からは富士山や甲府盆地越しに南アルプスの大パノラマを楽しめる。

山容は穏やかで笹原・草原が多く、明るい尾根歩きができる。

日 時：9月14日（土） 集合 甲斐大和駅 8時40分

交 通：往路電車時刻を2種類参考に載せます。他の方法多くあります。

(往路) ①新鎌ヶ谷 5:20 八柱 5:32_5:34—新八柱 5:36_5:46—西国分寺 6:47_6:55—高尾 7:21_7:26—甲斐大和 8:34 タクシーで湯ノ沢峠 9時20分着予定

②新鎌ヶ谷 5:18—船橋 5:30_5:40(総武線三鷹行)—御茶ノ水 6:11_6:12(中央特快高尾行)—高尾 7:05_7:26—甲斐大和 8:34 タクシーで湯ノ沢峠 9時20分着予定。

(復路) 景徳院 16:00 (予定) バス・タクシー・徒歩(30分) で甲斐大和駅 16:40
景德院入口～甲斐大和駅

バス 16:31・17:39・18:54(甲州市営バス) 駅まで4分乗車

バス 15:37・16:22 (栄和交通) 駅まで8分乗車8分

バス料金 300円 タクシー1100円 (4人乗り)

甲斐大和駅発 16:42 (高尾行) 17:35 (立川行) 17:57 (高尾行) 18:43 (高尾行)

コース：湯ノ沢峠…大蔵高丸…ハマイバ丸…天下石…米背負峠 大谷ヶ丸…コンドウ丸…曲り沢峠…大鹿峠…景德院

景德院よりバスかタクシー。徒歩の場合30分。

歩 程：標高差 上り 130m、下り 942m、累計標高差 上り 445m、下り 1468m
歩行時間5時間強 距離 12、4km

アドバイス：湯ノ沢峠までタクシーなので下りが長いコースです。

エスケープルート：天目山温泉 (バスあり)

交通費概算：5500円位 (景德院～甲斐大和駅までのタクシ一代金は入っていない)

交通費詳細：電車3500円 (ジパング使用往復) タクシー1台5800円÷4名、1500円位

担 当：(CL) 松本、(SL) 村田・加藤、(会計)：井上勝子

*〈富士吉田口登山道〉5合目までのトレッキング ややきつい山(体☆☆)

富士吉田口馬返～5合目までを歩く。

日 時：9月28日（土） 予備日29日（日） 集合：高尾駅乗車口 7:35

交 通

(往路) ①新京成新鎌ヶ谷 5:20—八柱…新八柱 5:32_5:46—西国分寺 6:47_6:55—高尾 7:21

②東武鎌ヶ谷 5:20—船橋 5:30_5:40—御茶ノ水 6:12_6:15—高尾 7:31

高尾 7:43— (JR 中央線河口湖行) —富士山駅 9:17_9:30— (タクシー) 馬返
(復路) : 富士山五合目— (バス) —河口湖駅—大月 解散
コース : 馬返 (1450m) …3合目 (1840m) …佐藤小屋 (2230m) …5合目 (2304m)
歩 程 : 標高差 854m コースタイム 3時間 30分
コメント : 2年連続中止で再々挑戦。一般参加募集山行
エスケープルート : 来た道を戻る。
交通費概算 : 6,370円 + タクシー実費
交通費詳細 : 休日バス 2,670円、大月→富士山駅 1,020円、河口湖駅→大月 1,140円
5合目→河口湖駅 1,540円
担 当 : (CL) 山口幸雄 、(SL) 鈴木か・江崎・高木

10月の山行予定

***安達太良山 (1,700m) ややゆるい山 (全会員対象) 体☆☆ 危★**
安達太良山山頂からの展望が素晴らしい。くろがね小屋に宿泊し温泉と紅葉を楽しむ。日帰りルートを1泊2日の行程なので、無理なく歩けるコース。
日 時 : 10月7日 (月) ~8日 (火) 雨天中止 集合 二本松駅 9時05分
交 通
(往路) 東京 7:08—上野 7:14 (やまびこ 123号仙台行) —郡山 8:30_8:39 (東北本線福島行) —二本松 9:01…5分…二本松駅前バス停 9:28 (バス 岳温泉行) —9:53 岳温泉_シャトルバス—10:15 あだたら高原スキー場 (奥岳登山口) *二本松駅からタクシー利用も可
(復路) 奥岳登山口 シャトルバス 12:20—12:40 岳温泉 (バス 二本松市役所行) 12:50_13:14 二本松駅前バス停…二本松駅 解散
コース
<1日目>奥岳登山口 (10:30) …ロープウェイ山頂駅・薬師岳 (昼食) … 仙女平 分岐…安達太良山…牛の背…峰の辻…くろがね小屋 泊 (15:00 着予定)
*ロープウェイには乗らない
<2日目>くろがね小屋…勢至平…烏川橋… (あだたら渓谷自然遊歩道) …奥岳登山口 (入浴可)
歩 程 : 累計標高差・登り、下りとも 750m 約 10Km
歩行時間 : 1日目 4.5時間、2日目 2時間 (休憩含む)
エスケープルート : 特に無し 1日目…ロープウェイ利用可

概算費用：約20000円（交通費ジパング使用 約13000円+宿泊費約7000円）

*タクシー利用の場合は+1000円

担当：(CL) 小林和 (SL) 小林正・金子・前田節

*足利・大坊山(285m)～大小山(314m) ☆☆ ★

低山ながら小さな岩場歩きと展望が楽しめる。

日 時：10月19日(土) 新鎌ヶ谷5:50発 予備日10月20日(日)

交 通

(往路) 東武鎌ヶ谷5:48—春日部7:03_7:07—館林7:51_7:59—足利市 8:17
足利市駅(タクシー・15分)—山川長林寺

(復路) 阿夫利神社(タクシー・20分)—足利市駅(東武線)—久喜—春日部—柏—
鎌ヶ谷

※ 足利市駅～鎌ヶ谷 ①15:49～18:13 ②16:15～18:33
③16:50～19:13 ④17:17～19:53

コース 山川長林寺…浅間山…見晴台…大小山分岐…大坊山…大小山分岐…越床峠
(番小屋あり)…大小山…見晴台…男坂女坂分岐…阿夫利神社

※エスケープルート①として大坊山から20分で大山祇神社へ(タクシーで足利市駅)

※エスケープルート②として越床峠から20分で足利病院へ(タクシーで足利市駅)

難易度：数か所の岩場と登降が続き、歩き応えあり(ややきつい山レベル)

歩 程：累計標高差 720m 歩程 6時間

概算費用：

交通費概算：電車2200+タクシー(4人乗り)1300=約3500円

その他：朝食1 昼食1

担 当：(CL) 梅田、(SL) 逢池・村上

*コスマスふれあいロードハイキング (東武健康ハイキングに参加)

日 時：10月27日(日) 雨天中止

交 通

(往路)：東武・新鎌ヶ谷 7:24—柏 7:41_7:52—春日部 8:33_8:46(館林行・区間急行)—
久喜8:58

(復路)：東武・鷺宮(普通、4分)—久喜—春日部—柏—新鎌ヶ谷

交通費：約1,500円

スタート受付(9:00～10:30)：久喜駅西口・地図受取、順次スタート、

ゴール受付：久喜市コミュニティ広場(特設イベント会場)

行程 9 km／約 2 時間 30 分、参加記念品あり、
広場⇒鷺宮神社(関東最古)⇒鷺宮駅(約 2 km)コース設定外、(解散)
全行程約 11 km、約 3 時間
担当 : (C L)入江、(S L)三橋

県連予定行事

*2019 全国ハイキング学校

9月28日（土）13:00～29日（日）12:00 詳細はちばニュース6月号に

申込み先 日本勤労者山岳連盟 ハイキング委員会 (FAX・メールでOK)

〒 162-0814 東京都新宿区新小川町 5-24

TEL : 03-3260 FAX : 03-3235-4324

メール : jwaf@jwaf.jp

注 定員30名先着順・定員になり次第締め切りです。

近くで参加しやすいのですが、申し訳ありません。

*事故防止 経験交流集会

11月9日（土）13時～10日（日）12時 富津 市民の森

趣 旨：事故の共有化、再発防止と各会交流

担 当：羽鳥

*女性委員会

第13回ワンコイン講習会 9月7日（土）13時～16時30分

西部公民館・山筋ゴーゴ一体操 石田良恵先生

第14回ワンコイン講習会 11月24日（月）（予定）

船橋市西部公民館 初級リーダー講習会 安村 先生

（会場使用・講師日程等により変更の場合もあります）

担 当：伏見

※山行計画が承認されたら、山岡まで送付してください。

飯土山 金城山

R1年6月17日

羽鳥 四元 金澤(羽鳥氏友人) 清水記

6/17-6/18で新潟の山、飯土山と金城山に行って来ました。17日当日新幹線で越後湯沢に着くと駅前に羽鳥さんの友人の金澤さんが車で待っていました。早速、彼の車にリュックを積み飯土山の登山口の岩原スキ一場に向かいました。スキ一場に着くとあいにくの雨で雨具を着用し登山開始です。雨の中を歩いてゆくとスキ一場のそこかしこに雨具を付けた人が腰をかがめて山菜を探っていました。残念ながら景色も見えず山頂に登るというだけの登山となりましたが、翌日の足慣らしと思い無事下山しました。2日目は金城山に登りますが、予定の登山口が閉鎖され現在は観音山コースのみが使用できるとの事で取り敢えず登山口を下調べしようと楓岡寺の入口脇にある登山口を確認して宿泊先へ向かいます。この日の宿泊は六日町のさくり温泉です。民宿価格ですが、食事、温泉とも満足です。特にお米はさすが新潟の米どころでとてもおいしかったです。

2日目

朝起きると天気は曇り、前日に確認した観音山登山コースより登山開始です。



雨上がりの山道を歩いてゆくと早速、急斜面になる。滑りやすい斜面をひたすら登るとロープや鎖場がてくる。岩場の登りはゆっくりと登れば何とかなるが、下山が心配などと話しながら山頂に着く。途中昼食に米どころのお米で作ったおにぎりを食べたがとても美味しいかった。この山に登る前は、1300mの標高

と高を括っていたのですが、標高差1100mの岩場の急斜面は楽ではありませんでした。山頂からは8月の会山行の巻機山や新潟の山々を望み下山を開始しました。下山は雨上がりでもあり、心配したように岩場の急斜面の下山は大変苦労しました。鎖やロープが無ければ到底下山できなかつたと思います。とにかく無事に下山し、帰りは湯沢駅まで車で送って貰い帰宅しました。
余談ですが、その夜に新潟の地震がありニュースを見てびっくりです。

千葉県連海外登山<中国四川省：四姑娘山ブルーポピー・ウォッチング>

四姉妹の長女「大姑娘山(ターキニャンシャン)5025m」山頂に立つ！

安彦秀夫

期　日：2019年7月6日（土）～15日（月・祝）<9泊10日>

参加者　C L：安彦、S L：桐生、

M：逢地、前田延、菊池、五十嵐朝、嶋本、石塚（8名）

他に4会から11名（男性2名、女性9名）参加 → 総合計19名

『ブルーポピー』を見たくて、そして、特別な岩稜登攀や雪山の技術がなくても山頂に立てる5000m峰にも登りたくて企画しました。

更に、パンダの故郷でのパンダとのご対面や激辛な四川料理を本場で味わい、四川の地方劇『川劇（変面）』鑑賞をしたくて…。どれも体感することができ、大満足の10日間でした。

今回も裏話を主に報告し、感想は他の参加者に委ねます。



<1> ブルーポピーと5000m峰

日本のツアーや会社数社のパンフレット『四姑娘山山麓フラワートレッキング』を見てから、いつかは行ってみたい…と考えていました。また、どうせ行くなら5000m峰の『大姑娘山』山頂にも立ってみたい…と強く思うようになりました。

<2> 成都へのアクセス

成田からの直行便(ANA)はありましたが、成都着が夜遅く、更に費用を抑えるために中国の航空会社便を考えました。しかし、直行便はなく、中国国内での乗

り継ぎ便はありましたが、フライト時間の正確性に不安があり、且つ、費用も思ったほど安くはならず、最終的にANA直行便に決めました。

<3> 山頂アタック時の現地サポート体制

参加者の顔合わせを兼ねた説明会時に、当初の4名（スルーガイド1名とトレッキングガイド3名）では、安心してアタックできないので増やしてほしい…旨の要望が強くありました。

理由は、体調不良などで途中で下山を余儀なくされた場合、単独では下山できず、現地スタッフと一緒に下りることになる。これが続き、最後にガイド1名になった際に、自分が下りざるを得なくなった場合は他の人に申し訳ないし、逆に、他の人が下りざるを得なくなった場合、自分が登頂を諦めざるを得なくなることが予想される。このような事態を避けるため、多めのスタッフを確保してほしい…ということでした。具体的には、参加者2~3名に1名のスタッフがいると好ましい…ということで、急遽3名の追加を旅行会社にお願いし確保していました。

この時点で、山頂アタック希望者15名に対して現地スタッフ7名となり、まずは一安心しました。追加料金は発生しましたが、一人部屋利用料金の差額などより捻出できたので、追加徴収をする必要はありませんでした。



<4> 山中での水に不安

説明会時に、『川の水を使用するので、お腹の調子が悪くなるのでは…。自分でお湯を沸かしたいので、現地でカートリッジガスボンベを入手できるかどうか確認してほしい…』という声（依頼）がありました。

旅行会社を通しての回答は、期待していたようなものではなかったので、国内

の2社（EPI、イワタニ）にメールにて問い合わせをしました。しかし、入手できない旨の回答しかありませんでした。

ということで、参加者には、現地で、確実に沸騰させていることを自分たちの目で確認するしかない…ということを案内しました。

山中で、『下痢をした…』という声が聞こえてきましたので、結果論ですが、水に関して必要以上に神経質になる必要がなかったのかな…と感じています。

現地で、スルーガイドから聞いたところでは、アウトドア店でガスボンベは簡単に購入することができる…とのことでした。但し、時間がなく、店に行き確認することはできませんでしたが…。

<5> 高所順応で17名登頂

バスで一気に『成都（約500m）』から登山口の町『日隆（約3200m）』に入ったため、頭が重く、ちょっと動くだけで呼吸が乱れました。しかし、翌日の高所順応の裏山ハイキング（約3800余m）を終えた後は、前日の不調はどこかへ行ってしまったようで、まずはまずのスタートを切ったかな…と感じました。

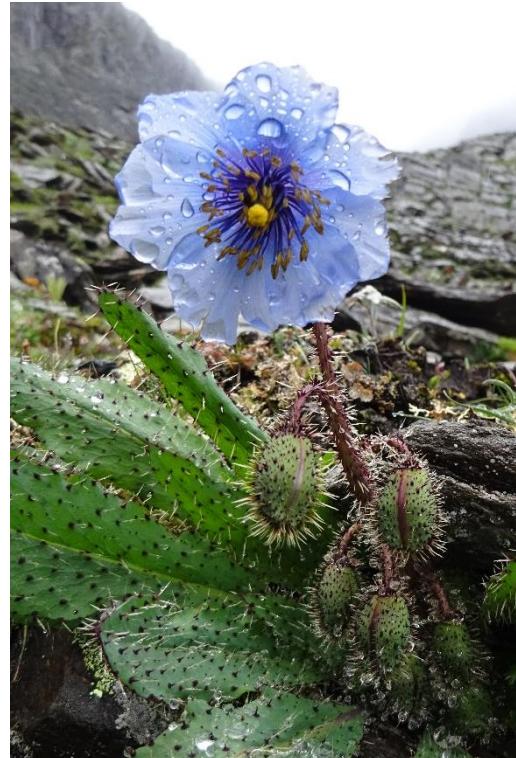
ベースキャンプ（約3800m）でのテント2泊後に、C1キャンプ（約4300m）に入りました。周辺で、お目当ての『ブルーポピー』を岩陰などに見つけては写真を撮りました。花がやや下向きなため、出来る限りローアングルから撮ろうとしゃがみ、そして立ち上がるたびに目がくらみました。

1名が体調を崩し、酸素ボンベのお世話になりましたが、翌日になっても思わずなく、ベースキャンプに下りてもらいました。

ブルーポピー・ウォッチング希望の4名も山頂アタックに変更し、山頂アタック18名に対して現地スタッフ7名の25名で、C1キャンプをヘッドランプを付けて出発しました。しかし、1名が最初の休憩時に体調不良を訴え、現地スタッフと一緒にC1キャンプに下りてもらいました。

結果として、参加者19名中17名が大姑娘山山頂に立つことができました。

山頂付近では立ち込めていた霧もなくなり、四姑娘山・三姑娘山・二姑娘山をはじめ周囲の山々を見渡すことができました。ラッキー！



<6> キャンプ地での食事

ベースキャンプ及びアタックキャンプでの食事、特に夕食は、私たち日本人に合う味付けで美味しく食べられました。『日隆のホテルの食事より美味しいね！』という声があちこちから聞こえてくるほどでした。

朝食はお粥と蒸しパン、昼食はうどん、まあまあでしたかね…。

<7> 山行を終えて

ベースキャンプ 2 日目の足の踏み場もないほどに延々と続く高山植物の中の高所順応トレッキング（大海子 3836m、花海子 3846m）は、天候とお花にも恵まれ、想い出をさらに印象付けてくれました。

『臥龍パンダセンター』での子どもパンダの一舉一動には、時間を忘れてカメラのシャッターを切っていました。

四川省の地方劇『川劇（せんげき）/変面』は、一見の価値あります！

今回の山行を手配し、私や参加者の希望を現地の会社と粘り強く交渉していただきました『株式会社ワイルド・ナビゲーション』の宮田社長に感謝します。



また、現地では、度重なる日程変更にもかかわらず、寛容に、そして辛抱強く協力をしていただきました参加者の皆さんに感謝します。（2019/7/20/Sat.）

《日程》 <行動時間：休憩含む>

- | | |
|------------|---|
| ① 06 日 (土) | 成田 ⇄ 成都 |
| ② 07 日 (日) | 成都→日隆 (バス移動) |
| ③ 08 日 (月) | 日隆裏山ハイキング (高所順応) <4:40> |
| ④ 09 日 (火) | 日隆…老牛園子 BC/ベースキャンプ <6:10> |
| ⑤ 10 日 (水) | BC…大海子・花海子高山植物ウォッチング…BC (高所順応) |
| ⑥ 11 日 (木) | BC…C1/アタックキャンプ <4:00> ^ <4:50> |
| ⑦ 12 日 (金) | C1…大姑娘山登頂…C1…BC <5:00 / C1 山頂往復 + 2:10> |
| ⑧ 13 日 (土) | BC…日隆→臥龍パンダセンター→成都 (バス移動) <4:45> |
| ⑨ 14 日 (日) | 成都市内観光 (武侯祠博物館、杜甫草堂、川劇など) |
| ⑩ 15 日 (月) | 成都 ⇄ 成田 (通関後解散) |

大姑娘山

逢地 春夫

何十、何百種類もの綺麗な花が咲き乱れる高原の広大な牧草地の中に、馬とヤクが小さな群れを成してのんびりと草を食んでいた。

こんなのがんびりとした天空の、のどかなお花畠に暮らしている馬やヤクには、ストレスなど全くないだろう。我ら 19 名は、こんな天国のような牧草地の中を合計六日間も歩いた。広大な牧草地にお花畠、馬とヤク、兎、リス、猫、鳥の歓迎も受けました。山頂での展望にも恵まれ、5025m の高山病も吹っ飛び山行計画書の白星、黒星、各三つは誰でも楽しめる天国のハイキングに変りました。

(ヤク *Bos grunniens*; yak)

偶蹄目ウシ科。体調 2.9m、体高 2 m、体重 500kg 内外。体は長毛で覆われ、長毛は蹄のあたりまで達するほど長く伸びる。角も長く、1 mほどにもなる。チベットの標高差 6000m ぐらいの高地に群れをつくって住む。寒さに強く、冬になると風をよけるため谷間に移動する。一部は家畜化され、労役用、毛皮用、乳用、肉用として使われている。野生の数は少なく国際保護動物に指定されている。



石塚 洋子

富士山が最高峰の私にとって、5025mの大姑娘山はまったく自信がありませんでした。

前日に雨が降り、登山はできないだろうな～？と思っていましたが、朝4時に起きたら雨は止んでいました。

4300mの第1キャンプから5時出発。ヘッドランプをつけて松戸山の会が先頭を歩きましたが、少しペースが速い。途中で東葛山の会と入れ替わり、ユックリペースになりました。

頂上は展望が良くいろいろな雪山が見えました。5000mから見える景色にとても感動しました。

標高3000m～4300mのお花畠は広大で、どこまでも続いています。今迄の山で一番お花が多かったです。

下山してから夜の川劇がVIP席で、お茶を飲みながら早変わりのお面が変わることを楽しみました。前の中央の席で急にマダムになったようでした。

松戸山の会は元気がいいです。声も大きいし、ホテルの夜の1杯も何回かあつたようです。色々な会の人達から沢山のパワーを頂きました。

山は危ない所はなく、大姑娘山は、梅雨の頃のお花いっぱいの時期で、とっても楽しかったです。

登山道はドロドロあり、ヤクと馬の糞が沢山。たまに臭いです。

テントキャンプ4日間の食事が美味しく、食べすぎて正露丸のお世話になりました。



四姑娘山・三姑娘山・二姑娘山をバックに大姑娘山山頂直下にて

大姑娘山登頂と高山植物ウォッチングに参加して

嶋本 道子

ツアーワークの予定が発表され、行きたくて行きたくてたまらなかつたのですが、何度も高山病になつた事があるので、5025mと聞きダメだと自分に言い聞かせていました。締め切り後に何度か追加募集があり、高山植物だけでもと思いつつ切って参加を決めました。

出発前にミウラドルフィンズで、高所テストと4000mと5000mの高所訓練を受け、いろいろとアドバイスを頂き参考になりました。

成都(500m)に到着して二日目、いよいよ出発です。最初は臥龍のパンダセンター(1800m)によってから峠を越えていく予定でしたが、パンダセンターに立ち寄らずに直行する事に変更になり、不安でいっぱいになりダメかなと思いました。峠の写真タイムではフラフラしながら写真を撮っていました。とにかく深呼吸。意識して呼吸をしていました。

その後、日隆(3200m)2泊、老牛園子ベースキャンプ(3800m)2泊、第一キャンプ(4300m)1泊で頂上にアタックしました。梅雨の時期とはいえ、まずまずのお天気で雲海の上に雪をかぶった山々の景色には感動しました。

お目当ての高山植物は、ピンクのシオガマ、エーデルワイス、フウロ草は色濃く雑草の様に沢山あり、ジンチョウゲの花は白くて丸く芯が赤やら黄やら紫でとても可愛らしく、黄色のサクラ草もあちらこちらに咲いていました。ブルーポピーは4000mを超えるとはじめて見ることができ、岩陰に背が低く沢山の蕾を抱えてひっそりと佇んでいました。咲いたら見事でしょうね。

下山してからの川劇鑑賞、成都武侯祠、杜甫草堂の観光。忙しい日々でしたが成都の街を満喫しました。また街の雰囲気から中国の勢いも感じとる事ができました。

安彦リーダーはじめ同行の皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。



色とりどりのジンチョウゲ

菊池 光子

中国：大姑娘山（5,025m）登頂できました。

高度順応（3,200m）・（3,700m）と、ここまで、走ることは出来ないが問題なく

登ってきました。富士山と同じ感じでしたが、高山植物は凄かったです。癒されて楽しく登ってきてしまう。

アタックキャンプ（4,300m）から登頂 5,025m 山頂までは大変でした。

稜線のコルから視界が開けて来た時は、初めての感動！感動でした。（長生きして良かった！）ブルー ポピー・ウスユキソウいろいろな高山植物のお花も、いっぱいでした。

たくさんのパンダにも逢ってきました。しぐさのかわいいこと。

観劇：（川劇）曲芸・手品・寸劇など、衣装と面の早変わりが見事でした。

盛りたくさんの四川山旅、有難うございました。



桐生 千恵子

蒸し暑い成都からバスで一気に 3200m の日隆のホテルに到着すると、フラフラして気持ちが悪い。高度順応でゆっくり歩き、のんびり過ごしていると慣れていくのが体感できた。

どこまでも続くお花畠の中を歩いて着いたベースキャンプは、広大な牧場の中にあり、川が流れ、ピンクのサクラソウが絨毯のように広がる中にテントが設営されていた。寝ているとすぐ近くまで牛や馬が近づき、ガサガサ音が聞こえてトイレも我慢…。常設の寝袋に持参した寝袋を入れたので温かく快適に過ごせた。

4300m の第一キャンプ場は、カールの中にありブルー ポピーなどが咲き乱れる贅沢なテント場だった。そこからヘッドランプをつけてアタック開始。ガイドが 7 人も付き添ってくれたことは、とっても心強かった。

くじけそうになる苦しい歩き。突然視界が開け、四姑娘山、三姑娘、二姑娘、その他の山々が大舞台の幕が上がったように目の前に広がった。

大歓声をあげ、思わず仲間とハグをした。さあ～山頂は目の前…。急に脚も軽くなったように感じた。

「バンザイ」山頂にタッチ！！

大姑娘山（5025m）

五十嵐 朝子

初の5000m級の山、不安を抱えながらの参加でした。

成都に着いて、高速道路で移動中、右を向いても、左を見ても、高層建築の建設ラッシュが何処までも続き圧倒されました。日本小さな国を実感させられました。

7/7 移動のバスの中で、「私達もアタックします！」フラワーウォッチングの4名が言葉の解るガイドが付いて説明してくれると思っていたが、そういうガイドはいないことがわかり、登頂組に変更したのです。これで、全員が登頂を目指すことになりました。

7/8 登山の基点の町「日隆（リーロン）3200m」

この日は、足慣らしに裏山をゆっくりハイキング。

7/9 いよいよ登山に向けて、ベースキャンプまでゆっくり、お花や馬や牛の放牧地帯をお邪魔しながらのトレッキング。日本でお馴染みのフウロ、トラノオ、キンポウゲ、シオガマは一面に咲き誇り、ウスユキソウも足元から咲いていて、踏みつけてしまいそう。テント場（3600m）の周りにもピンクと黄色のサクラソウが草原を彩り、山に川、馬が草を食べている様子は額縁に入れたいほど、のどかな風景で飽きることなく、いつまでも眺めていました。

7/10 高度順応のために、テント場より少し標高の高い所にある湖（大海子3800m）までトレッキング。往復6時間弱、この日も途切れることがない花畠と馬や牛に癒されながら充実したトレッキングでした。

7/11 いよいよアタックキャンプ（4300m）を目指して出発です。雨の中、徐々に高度を上げながら登って行く。4000m当たりから息苦しくペースダウン、仲間の配慮でガイドの後ろにつかせてもらい歩くものの、呼吸がうまく出来ない。体は重く足が前に出ない。ようやくアタックキャンプに到着、テントに横たわる。これが「高山病」なのか？頭痛、息苦しさ、ふらつき、食欲減退。夜には酸素吸入をしてみたが、あまり回復はしなかった。トイレまで歩けないのでテントの中で携帶用トイレを使用した。情けなく感じました。

7/12 アタックの日、皆を送り再びテントへ戻り、明るくなったら下山することにしました。「登頂出来なかったら、ブルーポピーでも見ながら、皆が下山するのを待てば好い」と下のテントでは思っていましたが、そんな甘いものではありませんでした。

「僕も一緒に下ります！」松戸の会の男性がテントに来てくれました。

とても心強かったです。

私は下山ガイドに靴を履かせてもらい、靴ひもまで結んでもらって下山開始です。やっとお目当てのブルーポピーを何本か見ることができました。

7/13 ベースキャンプに戻ってきても体調はあまり変わらず、リーロンの町までの5時間位、放心状態で歩いていました。ザックもガイドの丁さんに背負っていただきました。

リーロンから成都に向かう途中、パンダ公園に寄りました。ここは1700m位なので、やっと元気を取り戻すことが出来、パンダの愛くるしいしぐさや無邪気に遊ぶ子供パンダに癒されました。

7/14 最後の日の晚餐は「薬膳料理」のお店で、「日本人向けに美味しいですよ！」ガイドの蘇さんの前評判通りでした。

体も温まり、とても美味しく戴くことができました（生き返った！瞬間です）食事の後は中国の「川劇」を鑑賞しました。初めて観るものですが演目が沢山あって大満足でした。

今回の山は登頂することは出来ませんでしたが、大姑娘山の山麓の雄大な草原と何処までも続く花畠の光景は日本では見る事はできないでしょう。また、テントで戴いたスイカやチベット料理、仕事とはいえスタッフの温かい笑顔が忘れられません。

また、同行した皆様には温かい言葉や励ましをいただきました。

高山で自分だけでも大変な中、支えてくださり本当に感謝の念でいっぱいです。お世話になり有難うございました



ベースキャンプ～大海子のトレッキング風景

木曽 御嶽山 (3063m)

日 程 : 2019/7/7(日)～7/8(月)

参加者 : 永木・安田・菅谷・江崎 (記)

7/7 鎌ヶ谷⇒伊那インター⇒木曽福島⇒御嶽ロープウェー⇒山頂駅…七合目
(黒沢口登山道) …女人堂 (三ノ池ルート分岐点) …石室山荘 (泊)

7/8 石室山荘…剣ヶ峰…白竜避難小屋…摩利支天展望台…五の池…のぞき岩
…濁河温泉♨⇒御嶽ロープウェー⇒塩尻インター⇒鎌ヶ谷

7月7日 (日)

梅雨の時期、毎日天気予報を見ながら気象予報に詳しい永木さんと相談し7月7日～8日で山行決定。

7日の朝は雨模様、大丈夫かな～、鎌ヶ谷を5時に出発、早朝なので渋滞もなく順調に進む。御嶽ロープウェーに10時20分着、ゆっくりと昼食をとりロープウェー往きのみのチケットを購入し山頂駅まで行く。

雨も上がり11時40分御嶽山を目指す。山頂はガスがかかり見えない。

7月1日より剣ヶ峰まで登れるようになり、多くの登山者が前日小屋に泊まり、登った人や早朝 (ロープウェーの始発は8時半～) 登り始めた人達が下って来る。ゆっくり登ってもヒーヒーフーフー言ってしまう。八合目女人堂を過ぎると森林限界となり、岩石ゴロゴロの道になる。噴火の影響でしょうか、たくさんの中神碑が倒れている。午後2時40分石室山荘に着く。ゆっくりと部屋に入ると、百名山前夜祭という事で赤ワインと可愛いクッキーが用意されていて、嬉しくてウルウルするぐりこでした。お心遣いに感謝です。

7月8日 (月)

早朝4時15分小屋を出発、タップリと寝たせいか体調バッチリ、5時山頂剣ヶ峰 (3063m) に立つ。



永木さんは99座目、江崎は100座目、山仲間に感謝感謝です。山頂の小屋は解体寸前、多くのモニュメントが倒れ登山道にはシェルターが3基出来ている。

『登らせて下さりありがとうございます…』と4人で手を合わせ祈りました。ガスの中からご来光、心から感謝の気持ちが湧いてきました。

二の池から明るい日差しの中、摩利支天へは賽の河原までグーンと下り、ちょっと登って展望台へ。御嶽山がドーンと目前に見え圧巻だ。五の池へのルートの斜面にはコマクサが点々と蕾をつけていた。しっかりと育ってね。五の池小屋のテラスでゆっくりとコーヒータイム。この辺りは噴火の影響はなかったとの事。

さあ～長野県から岐阜県側の濁河温泉まで3時間の下り、御嶽山特有の横木を敷いた登山道が多く、滑らないように歩く。昨年の大雨で沢に掛かる橋が流れ原生林の中を通る迂回路が出来ていた。12時濁河温泉♨に着く。露天風呂でゆっくりと汗を流し良い気持ち。(o^-^o)ニコ

御嶽山噴火で犠牲になられた多くの方々に祈りを込めて登らせて頂きました。99座目の永木さん、一緒に登って下さった安田さん、菅谷さんありがとうございました。

_____。o★*o。_____。o★*o。_____。o★*o。_____。o★*o。_____

お得切符情報

北海道&東日本パス

JR北海道線、JR東日本線、青い森鉄道線、IGRいわて銀河鉄道線及び北越急行線の普通列車（快速含む）普通車自由席及びJR東日本のBRT（バス専用道）が乗り放題。また、急行列車は料金券を購入で利用可。新函館北斗～新青森間内相互発着の場合に限り、特定特急券を購入で北海道新幹線の普通車の立席（空いている席）が利用可。

発売箇所

JR東日本、JR北海道の主な駅の指定席券売機（一部除く）、みどりの窓口、旅行センター及び主な旅行会社、びゅうプラザ。（一部取扱いしていない箇所あり）

利用期間

【夏季】2019年7月1日～2019年9月30日

【冬季】2019年12月10日～2020年1月10日

発売期間

【夏季】2019年6月20日～2019年9月24日

【冬季】2019年12月1日～2020年1月4日

前売り期間：有効期間開始日の1ヶ月前より当日まで

発売額：大人 10850円

有効期間：7日間

秋田・岩手 燃石岳 1547m・栗駒山 1626m 7月8日～10日

参加者 梅田・四元・清水・山口幸・山口洋・間瀬・畠中・蓮見・井上順（記）

以前から夏山登山に塩見岳を計画していましたが、天候の関係で急遽東北の山に変更。好天そして展望に恵まれた二泊三日の山行が出来ました。

車二台 9名で移動。初日は6時常磐道「守谷SA」集合。途中アジサイで有名な二本松の「高林寺」を見学。水沢手前の「奥州スマートIC」で下り、奥羽本線「湯沢」寄りの東成瀬「やまゆり温泉ホテルプラン」に午後4時到着。美肌効果満点（Ph 9.8）のツルツル（と言うよりヌルヌル）温泉につかり、豪華な夕食を摂り早めの就寝。

翌日は「燃石岳」西側の「東成瀬三合目」へ車で移動。予約していたジャンボタクシーに乗り換え、東側の「中沼登山口」へ一時間程かけて移動。この時期、花は初夏から盛夏への端境期との話を現場で聞いた。驚く程雪解け水が豊富で、高度を上げても水音が絶えず、至るところに咲き終わった水芭蕉が見られた。雪渓が各所に見え、積雪の多さを物語っていた。

燃石岳山頂に立つと、岩手県側は見事な雲海、秋田県側は雲ひとつ無い好展望。北は雲海に浮かぶ岩手山・八幡平、西には残雪多き鳥海山が他の山々を圧して君臨している。重畳たる山並みが続くが、残念ながら山名の知識が無い。下山道には「みやまきんばい」の群生地があり、一行足止めしてしばし心の洗濯をした。



増水時通行不能となる胆沢川の中を歩き、16時無事駐車場着、8時間の旅が終わった。
温泉と冷たいのが待どうしい。

鳥海山を眺めながらの昼食 燃石岳山頂にて

翌々日は「栗駒山」。ホテルから車で 30 分位の「須川高原温泉」から登る。現在「須川登山道」は、昭和湖周辺の火山性ガスが高濃度のため危険区域として通行止め。よって東周り「産沼」経由の道を行く。登山道の草刈りがいまいちで、山頂近くは藪こぎで気が滅入った。

山頂は一点の雲もない快晴。岩手県側の雲海は昨日と同じだが、秋田・山形県側の展望はすばらしく、鳥海山は昨日よりもはっきり、そして月山も見えた。飽きることの無い眺望に、しばらく留まりたい気持ちになった。

下山は同じ道を下る。休憩を入れ往復 6 時間。下山後は登山口にある「須川高原温泉」の露天に浸かる。強酸性 (Ph 2.2) の硫黄臭の強いプールのような広い浴槽。しばし体を休め岐路につく。途中食事や買い物をし、運転を交代しながら 8 時間の長旅を終了、午前 0 時近くに自宅に戻った。

今回は、出発間際まで天気を始め渡渉の可能性や林道の状況等の確認作業、そしてタクシーや宿の予約に追われた。しかし、梅雨の時期とは思えない好天に恵まれ、温泉と食事に満足し、予定通りの行動が出来ました。担当された方々のご苦労に感謝すると共に、往復 1200Km を交代で走った運転手、そして全面的に協力して頂いた参加者の皆様に心から感謝致します。

「ヒヤリハット」

栗駒山山頂に到着後、転んで頭を打つ事故が発生。原因は、つまずくような突起物でも無いのに足元に注意を怠った為。両手に物を持っていたので、瞬時に手を使えなかったこと。転んだ目の前に岩があったこと。幸い帽子をかぶっていたため、コブが出来た程度で済んだ。

登山道を歩いている時だけではなく、休憩時も含め登山中は全ての状況下で細心の注意を払う事の重要性を痛感しました。



快晴の栗駒山山頂

赤城黒檜山・谷川岳

日程 2019.7.15（月）～16（火） 小雨→曇り、ときどき薄日

参加者 前田悟・前田節子（記）他25名 千葉中央交通バスツアーパートナーメンバーズ

<1日目> 7/15（月） 京成津田沼駅（7:00発）～関越道～赤城 IT～大沼駐車場…黒檜山登山道…黒檜山山頂（1828m）…駒ヶ岳…大沼駐車場～関越道～水上温泉 16:20着 水上ホテル聚楽（泊）
*歩行行程 5.5km 4時間 標高差 566m

<2日目> 7/16（火） 水上温泉（7:50発）～谷川岳ロープウェイ～天神平駅…熊穴沢避難小屋…谷川岳肩の小屋…谷川岳トマの耳（1963m）…往路下山…天神平駅～谷川岳ロープウェイ～湯テルメ谷川（入浴）～関越道～京成津田沼駅 19:40着
*歩行行程 7km 5・5時間 標高差 844m

谷川岳は、40年以上前就職し始めた頃、職場の若い仲間と登り、いつか又登りたい懐かしい山でした。それで4月に送られてきた千葉中央バスツアーナーの案内にこの企画を見つけ、すぐ申し込みました。

昨年の猛暑を思い出し、今年も梅雨は早めに明けるだろう…などと思っていたのですが。今年の梅雨は中々明けず、2日とも霧雨の中の登山でした。霧が晴れて薄日が射すときもありましたが、足下はぐちゃぐちゃ、木道や岩場はぬれていて滑らないかとひやひやしながら、一歩一步緊張の連続でした。

やっとの思いで山頂に着いたものの、周りは真っ白、展望は全くきかず残念でした。しかし、天候によっては途中で引き返すとの条件だったので、山頂を極められただけでもラッキー！霧雨で涼しかったのも不幸中の幸いと思うことにして、無事下山。水上町営の温泉「ユテルメ谷川」で汗を流しました。

ツアーパートナーメンバーズ全体で27名、バスもゆったり乗れました。添乗員が3名付き、参加者に細かく気を配ってくれましたが、2日目の谷川岳は、登り切れず途中でリタイアした人もいました。

登山道の脇に隠れるようにひっそりと咲くギンリヨウソウ。白く透き通った姿が不思議です。見つける度に感嘆の声が上がりシャッター音がしきり。1泊4食付きの2日間、だるま弁当・おにぎり弁当・ホテルのバイキング…どれも美味しい、大汗をかいた割には、今回もカロリーオーバーでした。

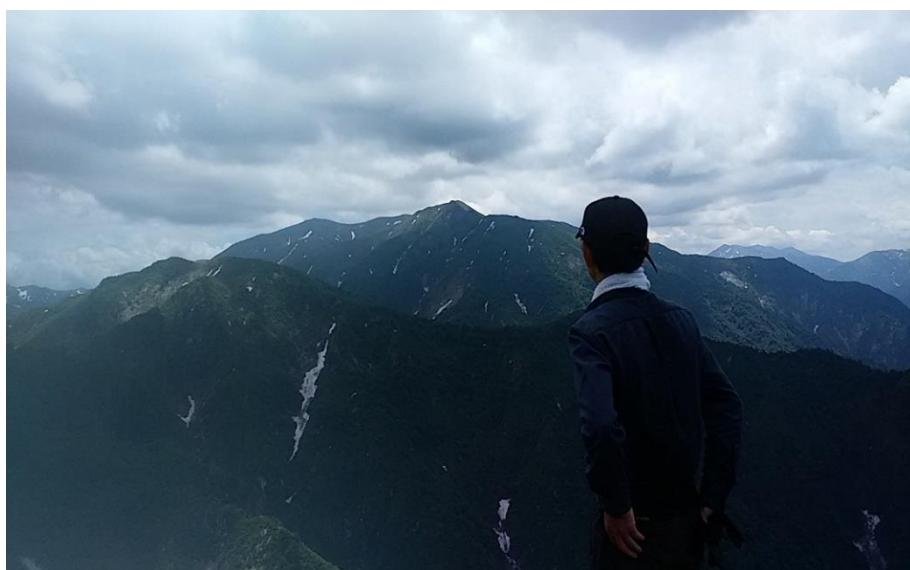


梅雨の晴れ間に新潟の山を登る

羽鳥健一郎

いいじさん
(飯士山)
いわっぱら 岩原広きグレンデ 届み込みワラビ採る人ここに彼処に
かが
飯士山グレンデ 沿いに登り行く雨に濡れたるシダ踏みしめて
雨上がりリフト終点でひと休み眼下に広がる岩原グレンデ
今度来る時はスキーか岩原広きなだらかな斜面見上げる
湯沢去り今宵の宿は六日町三国の湯にて明日に備える
さくり
魚沼の三国温泉に虹架かる彼方に聳ゆ中ノ岳雄々し
そび

きんじょうさん
(金城山)
どっしりと魚沼の里に座す金城山将棋の「金」に似たる雄姿よ
春蝉の鳴き声響く金城山ロープや鎖場緊張が続く
ニギリ飯朝昼合せ六個持ち魚沼の味嗜みしめ登る
坂戸山越後三山眺めつつ金城山へと標高上がる
標高差 1100 メートルを難儀して金城山の頂に立つ



金城山山頂に立ち眺むるは目交いに座す巻機山
無事に下り早苗伸びたる田を眺め水を飲みほし山振り返る

山 の 思 い 出

八巻 幸子

今まで山に行った記録をほとんどとったことがないので、山の思い出をと言わざるも困ってしまいました。そこで記念誌を見ながら自分の行った山で記憶にある事を書き出してみました。

- *1990年10月・・磐梯山、まだ山の会に入る前にいった市民ハイクで足が轢つたことです。
- *1991年11月・・身障者ハイクにはじめて参加。身障者の逞しさと明るさに感激、二年に一度のハイクにはなるべく参加しようと思いました。
- *1991年12月・・忘年山行で三斗小屋温泉に泊りました。
- *1993年8月・・北岳の山頂で主人が誕生日を迎えました
- *1995年1月・・三つ峠に四本爪のアイゼンを使用、疲れました。
- *1996年12月・・20周年記念を箱根駒ヶ岳でワインで乾杯。
- *1997年6月・・白神岳・焼石岳で高見さんの部屋に女性8人で泊まり雑魚寝。
- *1997年9月・・戸隠山でお喋りをして歩いている時に落下。一瞬のことで何にもわかりませんでした。その後、道の端を歩くのが怖くなりました。
- *1997年11月・・花園渓谷・お坊山に行くが道迷い。月明かりの中車に戻る。
- *2000年8月・・木曽駒ヶ岳～空木岳縦走に参加。宝剣岳の上空にヘリが、遭難者を収容していました。
- *2001年7月・・妙高山・火打山では雷に打たれた人の話を。ストックを離そうとした瞬間に雷が落ちたそうです。タツの裾が焼けていました。
- *2001年10月・・宮之浦岳・韓国岳・木富岳に、屋久島は雨が多いところといわれていますが山に行った日は天気は晴れ。観光の日、海に突き出た滝を見に行った時は雨で林道にはカニがたくさんいました。
- *2002年7月・・雲の平・高天原温泉・笠ヶ岳に、自分でもよく歩いたと思います。秘境の温泉にも入りました。最後の日にお腹を壊し下りは大変でした。
- *2003年6月・・山菜ハイク、とても楽しかったです。慣れている人は山菜を見つけるのが早いこと。
- *2006年3月・・三つ峠から清八山を下りたと思うのですが、南斜面の雪解け

- で何回も転びました。十年分転びました。
- *2006年4月・・弥彦山・角田山 カタクリとミスミ草を見に。
 - *2009年5月・・剣山・石鎚山の鎖場の最後は巻道を歩き山頂に。
 - *2009年7月・・旭岳・十勝岳・トムラウシはキャンプをして皆で朝食、夕食作りとても楽しかったです。私はトムラウシ山の手前まで行きました。
 - *2009年8月・・編笠山・権現岳は青年小屋に泊まり、翌日天女山方面に。
 - *2010年7月・・スイスアルプス、初めての海外旅行でした。12時間の飛行機、マッターホルンの朝焼け、また麓までのウォーキング、花、人、と十分に楽しみました。
- 2012年3月・・美ヶ原高原は前の忘年山行の時に肋骨を痛め参加できず、今回はうれしかったです。

また2011年に起きた東北大震災のボランティアに最初に参加したときはあまりの被害の大きさに涙が出ました。

いつも登りがゆっくりな私ですがこれからもマイペースで進みたいです。

9月号は小林さん、10月号は伏見さん、第二例会までに会報部（加藤）へお願ひします。



ちょっと一言

傘 寿

7月4日、満80歳の誕生日を、迎えることができました。
私は1回目のちょっと一言で、体調、病歴について「自己申告」という題でやまびこに書きました。

52歳の時に急性心筋梗塞を患い、その後東葛山の会に入会、定年退職し、その時に70歳までは何としても生きたいという願望を抱いていました。山登りと適切な医療により70歳をクリア、77歳の喜寿も娘や孫達に祝つてもらうこともできました。

そして80歳を迎えて、再び娘や孫に囲まれ、熱海のホテルで傘寿の祝いを、ホテルのディナーショーの中で、司会者から傘寿の祝いの言葉と、ケーキのサプライズを受け感激しました。
これからも娘や孫にかこまれる日を楽しみに、すこしでも元気に長生きするよう努めてゆきたい。

(高見 信明)

7/6～15 中国大姑娘登頂とブルーポピー・ウォッチングに参加しました。
テント泊が苦手なのですごく不安でしたが、ブルーポピーを見たい一心で参加しました。

四川地方も雨季ということで、雨の中のテント泊になり、少々辛い思いもしました。が、大姑娘山頂に立ち、目の前の四姑娘山の雄姿や周りの4000m級の山々眺めることができた時には、辛いことはみんな忘れてただ感動の一言でした。こんな5000mの山頂に立っている事が信じられませんでした。安彦さんをはじめ仲間の皆様のお蔭です、感謝の言葉しかありません。

お目当てのブルーポピーは少ししか見られなかったけれど、紫、黄色、ブルー、淡いピンクと目を楽しませてくれました。

馬、牛、ヤク等家畜の放牧地の一面のお花畠の花を踏ん付け(なんと贅沢な)、家畜の糞を踏まないよう苦労しながらのハイキングでした。

貴重な山行の思い出をありがとうございました。

(前田 延津子)

9月号は、山岡さんと村田さん、お願いします。

(8月の第2例会までをメドに、原稿を高山宛メールにてご送付ください。)

編集後記

子どもたちも全員家を出て行ったので、終活を始めました。もう読むこともないと思われる本や雑誌、着ることもないだろう衣服などを処分し、本箱やタンスを幾つか廃棄しました。片付け中、何か宝物でも出てこないかと期待していましたが、残念ながら金銀宝石はありませんでした。そのかわり息子達の子ども時代の作品や私自身が若い頃読んだ本など、たくさんの「思い出」と出会うことができました。この作業を通して自分自身とも向き合い、家族について考える契機になったように思います。これからも登山などでからだを鍛え、さらに思い出をたくさん作っていきたいと思っています。

(前田 悟)

今年の梅雨もそろそろ明けそうな頃になってきましたが、すでに台風6号が関東に向かっている等、関東の梅雨明けも大幅に遅れそうです。一昨年、昨年と7月に雨が少なく8月になると天候が安定せずおまけに台風の来襲で山行の予定が大幅に変更、中止を余儀なくされた昨年でした。そのため今年は6月7月で早めに計画をして熱い夏の8月はゆっくりしよう等と考えていたのですが、結果7月は例年ない大雨で予定が大幅に変更になりました。でも間もなく8月です。天候の安定を願って、新たに計画も立て直して気分一新、令和元年の登山シーズンに期待したいと思います。

(清水 利夫)

原稿作成要領

用紙設定 A4

余白 上下左右 30mm

フォントサイズ M S明朝 12P

※原稿締め切り、毎月第二例会までにお願いします。

<担当>鈴木か、前田せ、山岡

写真は1ページ1枚とさせていただきます。

手書きも大歓迎です。会報部員に渡して下さい。

発行日 令和元年8月1日

発行者 東葛山の会

会長 安彦 秀夫

編集者 梅田 尚志